

子どもたちが絵本に親しむサポーター

読み語りボランティア「あしたばの会」が表彰

3月16日に開催された青少年アンビシャス運動シンポジウムで、青少年の健全育成のため、優秀な活動を行っている団体として、絵本の読み語りボランティア団体「あしたばの会（武田みち子代表）」が福岡県知事から表彰されました。

平成13年10月に発足した「あしたばの会」は、市立図書館や保育所、子育て支援センターなどで、子どもたちが絵本を通して、豊かで心のこもった言葉を楽しく聞いたり、読んだりすることができるように支援を行っています。

4月7日に受賞報告のために市役所を訪れた武田代表らは「予想外の受賞で大変驚いた。地道な活動が認められて励みになります」と話しました。



▲5人の会員がそろった練習風景。あしたばの会は市立図書館で第2・4土曜日に絵本の読み語りなどを行っています

20年目の耳の日チャリティーコンサート

夜の美術館に響き渡る弦楽器の調べ

3月3日、田川市美術館で、市内在住でチェロ奏者の加治誠子さんらによる耳の日コンサートが開催され、チェロやヴァイオリン、ヴィオラの美しい音色が奏でられました。また、4月10日には、加治さんが市役所を訪れ、コンサートの収益金104,820円を寄付しました。

今年で20回目の開催となるこのコンサートでの収益金は、小説などの内容を音読したCDやカセットテープの購入に充てられ、これらは市立図書館の耳の日チャリティーコンサート文庫として多く利用されています。

加治さんは「これからもたくさんの人に楽しんでもらえるようなコンサートを続けていきたい」と抱負を語りました。



▲左から倉田輝美さん、緒方ももさん、宮原絵里さん、加治さん

シリーズ

田川市立病院だより

●かわいい情報はHPで検索

田川市立病院

検索

クリック



▲紹介患者受付窓口（総合案内横）

病院の上手なかかり方ー医療連携室

医療連携室は、地域の医療機関から患者さんの紹介を受けたり、こちらから紹介したりする窓口です。また、入院患者さんの他病院や施設への転院などを支援しています。

医療の進歩により、早く病気を見つけ治療をすれば治ることが多くなっています。そのため、普段の健康管理や診察のほか、健康相談など気軽に相談することができるかかりつけ医を持つことが大切です。もし、詳しい検査や手術が必要となった場合には、かかりつけ医から当院の医療連携室に連絡してもらい、紹介状を持参して来院してください。紹介状があれば、保険外併用療養費がかかりません。

紹介状には患者さんの日頃の治療内容や症状の経過が記してありますので、患者さんの状態が良く分かり、より安全に、かつ、よりスムーズに検査や手術を受けることができます。

そして、検査や手術が終了し、症状が安定すれば、かかりつけ医へ紹介しますので、かかりつけ医で治療を継続し、経過を診ることになります。このことを医療連携や病診連携といいます。

当院では、地域の医療の向上を目指して、地域の医療機関との連携を推進しており、その窓口である医療連携室において、地域の先生方からの連絡に迅速に対応できるよう、今後も努力していきます。